



ゴジラビル（新宿東宝）より巨大な東急系ビル 歌舞伎町で着々と進む複合エンタメビルの建設



新ビルの名称は正式決定していないがM I L A N Oは何らかの形で使われるに違いない

本欄・定点観測シリーズの一つ「歌舞伎町一丁目地区開発計画」のその後をご報告したい。

このプロジェクトはかつてミラノ座や新宿東急などの映画館を中心に、ボウリング場なども入居する東急系のエンタメビルとして絶大な人気を誇った「旧新宿東急文化会館」（新宿TOKYU MILANOビル）の跡地に建設中の高層ビルだ。

2019年8月着工、2023年1月竣工予定のこのプロジェクトは、地上48F、地下5F、高さ225m、延床面積約8万8000㎡の超高層ビル建設計画だ。

ホテル、劇場、映画館、商業施設などが入居する予定で、今年5月に観測した際には、鉄筋が組み立て終わり、外側部分の半分程度が網で覆われている状態だった。しかし、現在は写真でお分かりのように、網が全体を覆って、躯体工事がいよいよ佳境に入り始めている様子がわかる。

完成時の高さ225mは、現在

の歌舞伎町で最も背が高く、ゴジラのトレードマークで知られる東宝系のエンタメビル「新宿東宝ビル」の130m（地上30F）をかなり上回る。

ホテルグレイスリー新宿（8F～30F）がビルの多くを占める新宿東宝ビルと同様、歌舞伎町一丁目地区開発計画においても東急ホテルズ（17F～47F）が主要な位置を占めるが、エンタメビルとして注目されるのはB1F～B4Fまでのフロアがライブホールになることだろう。

そして東急レクリエーションが運営する映画館は12F～15F（新宿東宝ビルの東宝シネマズは3F～7F）を占めることになる。

いずれにしても、目と鼻の先にある新宿東宝ビルと、歌舞伎町一丁目開発計画で建設される超高層ビルは、かつてのコマ劇場とミラノ座とのライバル関係の再来、いや、それ以上のスケールで歌舞伎町に新感覚のエンタメ地区を構築していくことだろう。（砂耳）